

2012年度 連続公開セミナー「災害多発時代を迎えて」

# 第6回「災害と避難」

【日程】 2013年3月27日(水曜) 13:30~17:00(開場13時)

【会場】 関西学院大学 東京丸の内キャンパス ※入場無料

(東京駅日本橋口サピアタワー10階)

【主催】 関西学院大学 災害復興制度研究所

【共催】 日本災害復興学会



KWANSEI  
GAKUIN  
UNIVERSITY

## 《プログラム》

### ■趣旨

首都直下地震が起きると、ある試算によれば阪神・淡路大震災の6.5倍、東日本大震災東北3県分の4.3倍という震災が起きが発生するという。まず、東京中の空き地という空き地ががれきで埋まってしまふ。仮設住宅など建設する余地はないというのだ。いや、仮設住宅を建設するにしても必要戸数は実に27万戸。東日本大震災の5.1倍、阪神・淡路大震災の5.6倍にもものぼる。順調に進んでもすべての仮設住宅が完成するのに1年以上かかる計算だ。どう考えても住まいを失った多くの被災者は、東京にはとどまれない。避難先を求めて全国に散らざるを得ないだろう。しかし、阪神・淡路大震災の例をひくまでもなく、被災の記憶は思った以上に速く風化する。まして災害救助法の適用が終われば、多くの避難者は制度上、ただの転居者に過ぎない。家を失った被災者は「国内難民」となり、被災地とのつながりが切れれば、「漂流被災者」となる。わが国に長期避難者に対する支援の施策は、皆無ではないが、ほとんどないに等しい。ましてや原発避難はこれまでの災害避難とは大きく様相を異にする。ただ、ふるさとへ帰ることを目的にするという単純なものではない。危険が完全に払拭されるまで復旧にも、復興にも手がつけられない。しかも、原発災害は危険のレベルがよくわからない。「健康に今、ただちに影響はない」にしても、何年かのちに、何十年かのちに影響が出ないとは言い切れない。これまでの長期避難支援は、ふるさとへ帰ることを大前提とした。しかし、今回は「帰らないこと」も選択肢になる。まもなく出版する「震災難民一原発棄民1921-2011」の概要を執筆者たちが報告する。

### ■講演と質疑

13時00分 開場

13時30分 開演

あいさつ・解題

山中 茂樹

▽13時40分—14時30分

北原 糸子「関東大震災と地方避難者」

▽14時30分—14時50分

森 康俊「首都直下地震：下町の備えはどうか？ —墨田区住民調査から—」

☆14時50分—15時00分

質疑

休憩 15時00分—15時15分

▽15時15分—16時05分

田並 尚恵「県外避難者への支援—自治体による支援を中心に」

▽16時05分—16時30分

山中 茂樹「原発事故と避難」

☆16時30分—17時00分

質疑・全体討議

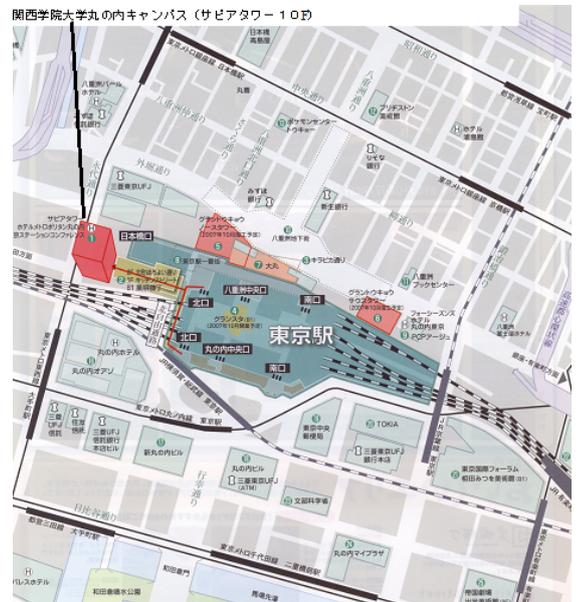
### 【申込方法】 (入場無料)

参加ご希望の方は氏名・連絡先 (Emailアドレス 又は電話番号) と「第6回公開セミナー」と明記の上、下記アドレスまでメールにてお申し込みください。

● 参加申込用アドレス [fukkou-entry@kwansei.ac.jp](mailto:fukkou-entry@kwansei.ac.jp)

- ・お申し込み時点で既に受付が終了していた場合は、ご連絡させていただきます。(受付完了のご連絡はいたしません。)
- ・入館には事前登録が必要です。
- ・当日は会場受付にて申請したお名前をお伝えください。入館カードをお渡しいたします。

関西学院大学丸の内キャンパス (サピアタワー10階)



# 関西学院大学東京丸の内キャンパス

東京都千代田区丸の内1-7-12 サピアタワー10F

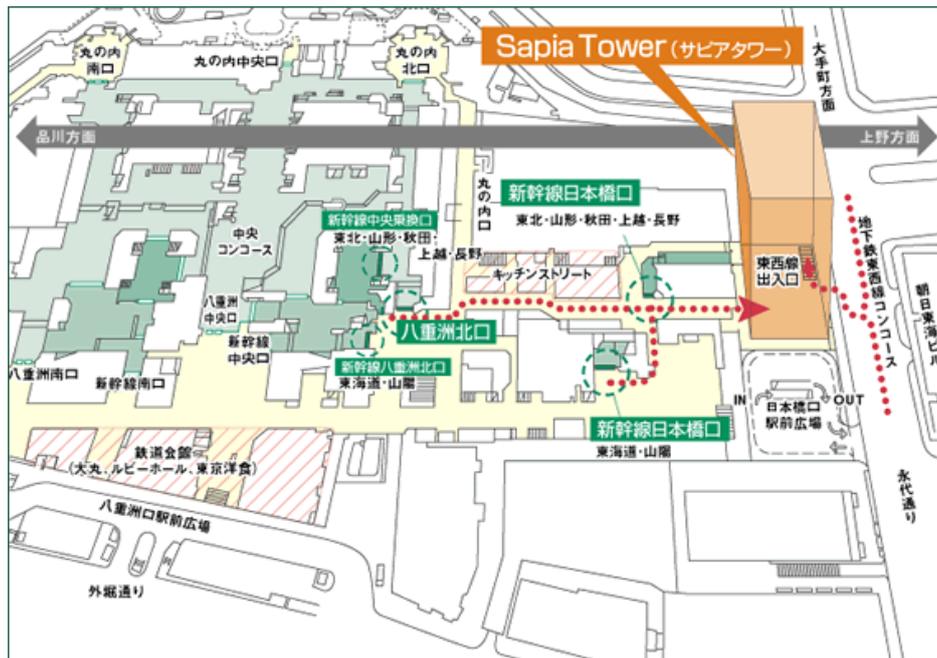
TEL 03-5222-5678

<http://www.jebl.co.jp/nihombashi/>

- ・JR 東京駅新幹線専用改札口(日本橋口)より徒歩1分
- ・JR 東京駅在来線八重洲北口改札口より徒歩2分
- ・東京メトロ大手町駅(東西線、千代田線、半蔵門線、丸ノ内線)B7出入口より直結

## ○入館方法

サピアタワー3Fの連続公開セミナー受付で「出席者名簿」に記入し、ゲストカードを受け取ってから、入館ゲートを通してエレベータで10Fに上がってください。入館中はゲストカードを必ず吊り下げ、紛失しないよう注意してください。ゲストカードは3Fから退館する際に、必ず返却してください。



## サピアタワー3Fの見取図

